

# 祝 日本遺産認定 『鯨とともに生きる』

この度、熊野灘の捕鯨文化に関するストーリー『鯨とともに生きる』が認定されました。

記

## 1 『鯨とともに生きる』概要

熊野灘地域において、古式捕鯨が産業として定着、発展した背景と今に受け継がれている捕鯨文化にまつわるストーリー。(全文は別添資料のとおり。)

タイトル	関係市町	主な文化財
鯨とともに生きる	太地町	捕鯨の祖 <small>わだよりもとのはか</small> 和田頼元墓 (県指定史跡)
	新宮市	三輪崎の鯨踊 (県指定無形民俗文化財)
	串本町	河内祭の御舟行事 <small>こうちのみさね</small> (国指定重要無形民俗文化財)
	那智勝浦町	塩竈神社のせみ祭り (未指定)

## 2 今後の取組

### ①協議会の設立

「日本遺産」ブランドの確立と認知度向上のため、県、(公社)県観光連盟、関係市町・団体等で構成する事業主体を設立し、構成団体が協働して事業を推進します。

＜構成団体＞ 県、(公社)県観光連盟、新宮市、那智勝浦町、太地町、串本町  
各市町観光協会、三輪崎郷土芸能保存会、古座川河内祭保存会等 (予定)

＜設 立＞ 5月 (予定)

### ②事業の推進

上記①で設立した協議会が実施主体となり、「文化芸術振興費補助金 (日本遺産魅力発信推進事業)」の交付要望を行い、下記の事業を推進します。

#### (1) 公開活用のための整備

熊野灘の捕鯨文化に関する案内板の整備等を行います。

#### (2) 人材育成

地域が中心となって日本遺産関係地域を訪れる観光客の受入を行うため、日本遺産ガイドの養成等を行います。

#### (3) 情報発信

国内外に積極的に情報発信をするため、ガイドブックやウェブサイト等、各種ツールを作成します。

#### (4) 旅行商品の造成

都市圏プロモーションなどにおいて、観光素材集を提案し、旅行商品化を促進します。

#### (5) 調査研究

残されている多くの史料や遺跡について、総合的な調査研究を行います。



担当課	観光振興課	文化遺産課
担当者	高橋 (恭)、村越	高橋 (智)、黒石
電 話	073-441-2777	073-441-3731

### 3 参考

#### ①日本遺産とは…

- 地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定。
- ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる文化財群を地域が主体となって、総合的に整備・活用し、国内・海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図る。

#### ②平成28年度認定ストーリー

- 19件 ※申請件数：67件
- 平成27年度認定ストーリー18件と合わせて、現在37件

### 4 お問い合わせ

- ストーリーの内容に関すること → 観光振興課までお問い合わせください。
- 申請、認定に関すること → 文化遺産課までお問い合わせください。



## ストーリー

### 「鯨とともに生きる」

鯨は、古来より、日本人にとって富をもたらす神“えびす”であった。浜辺に打ち寄せられた鯨の肉を食し、皮や骨、ひげで生活用品を作るなど、全てを余すことなく利用してきた人々は、この“海からの贈り物”に感謝し崇めながらも、やがて自ら捕獲する道を歩み始める。

熊野灘沿岸地域では、江戸時代初期に組織的な古式捕鯨（網で鯨の動きを止め、鉆を打つ漁法）が始まり、地域を支える一大産業に発展した。現在も捕鯨は続けられ、食・祭り・伝統芸能などが伝承され「鯨とともに生きる」捕鯨文化が息づいている。

### 《古式捕鯨の歴史》

熊野灘沿岸は、背後に急峻な熊野の山々を擁し、橋杭岩（はしくいいわ）などの岩礁が目立つリアス式海岸が続いている。その海岸近くを、黒潮が最大4ノットの速さで南方から北へ向けて流れ、多くの海の幸をもたらしている。



紀州熊野浦捕鯨図屏風

この地域は、鯨が陸の近くを頻繁に回遊すること、またその鯨をいち早く発見することのできる高台、捕った鯨を引き揚げることのできる浜という、古式捕鯨にとって最も重要な地理的要件を備えていた。

そして、人々は古くより生きる糧を海に求めたため、造船や操船に秀で、泳ぎに長けており、海に関する知識が豊富であった。これは、この地域の人々が、古くに熊野水軍として名を馳せ、源平の戦いでは海上戦の勝敗を左右する活躍をしたことなどからもわかる。

江戸時代、この能力を活かし、新たな産業として着手したのが捕鯨である。最大の生物である鯨を捕獲するには、船団を組み、深さ約45mから60mにも及ぶ網で鯨を取り囲み、鉆で仕留めるといふ、他に類を見ない大がかりな漁法が必要であった。命の危険を伴うこの漁は、勇敢さと統一ある行動が求められた。この意味で捕鯨は、水軍で培われた知識と技術が、そのまま有効に活用できる漁



紀州太地浦鯨大漁之図

であり、その壮大さは「紀州熊野浦捕鯨図屏風」などに生き生きと描かれている。

漁においては、500名を超える人々が役割を分担し、地域を挙げて捕鯨に従事していた。その役割は、鯨を見張り到来を知らせるほか不足資材や漁の状況等の情報の伝達をする者（山見（やまみ））、鯨に網を掛ける者（網舟（あみぶね））、鉆を打つ者（羽差（はざし））、仕留めた鯨を運搬する者（持双舟（もつそうぶね））、操業中各舟で不足した資材・食料を運搬する者（納屋舟（なやぶね））、また資材の管理や修繕を行う者（大納屋（おおなや））など多岐に渡っていた。

解体・加工は、「鯨始末（しまつ）係」が担った。鯨始末係は、鯨を引き揚げるために轆轤を回す“頭仲間（かばちなかま）”、解体をする“魚切（うおきり）”、骨や皮などを釜煎りし鯨油を採取する“採油係”などに細分化され、総勢80余名で構成された。彼らは、肉の大半を塩漬けにして樽詰で出荷し、ヒゲや筋は



道具の素材とし、採油後の骨や血液の粉、胃の中の食物等は肥料とするなど、持てる知識と技術を発揮し、巨体の全てを活用した。

鯨は、“一頭で七郷が潤う”と言われ、当時セミクジラ1頭で約120両にもなり、年間95頭捕れた天和元年(1681年)には、6,000両を超す莫大な利益をもたらした。このことは、遠く離れた大阪にも伝わり、井原西鶴の著書「日本永代蔵」には、鯨を取って得られる金銀が、使っても減らないほど蓄えられ、檜造りの長屋に200人を超す漁師が住み、船が80隻



日本永代蔵 卷二

もあり、鯨の骨で造られた三丈ほどの「鯨鳥居」があるなど、この地域の繁栄ぶりが記述されている。

捕鯨が発展を遂げた背景には、捕鯨という一次産業にとどまらず、解体や加工、鯨舟を造る船大工、銚や剣を作る鍛冶屋、浮き樽を作る桶屋、販売・経営を司る支配所など、二次・三次にも及ぶ広い業種が関わり、地域全体が利益を享受できるシステムを構築していたことが挙げられる。

### 《捕鯨が育んだ文化》

この地域には、多くの鯨にまつわる祭りや伝統芸能が今も受け継がれている。飛鳥神社の「お弓祭り」や塩竈(しおがま)神社の「せみ祭り」では、的に取り付けられた「せみ」(セミクジラを模した木や藁で作られたもの)という縁起物を用い、豊漁や航海の安全を祈願している。「河内祭(こうちまつり)」のハイライトは、豪華に飾り立てた鯨舟の渡御であり、かつて捕鯨がこの地域の生活を担う誇るべき産業であったことを物語っている。



三輪崎の鯨踊

また、鯨踊は、かつて大漁を祝う鯨唄の調べとともに、勢子舟(せこぶね)に渡した板の上に座したまま、あるいは浜で舞っていたものだが、この踊りにおける一糸乱れぬ動きは、鯨との死闘を見るようである。新宮市や太地町では、多くの小学生が、学習の一環としてこの踊りを習い、次の担い手となって継承しており、今では神事の際や祭りで披露し、郷土芸能として浸透している。



河内祭の御舟

平素の生活においても、今も続く捕鯨により得られた肉は、郷土の味として定着している。

熊野灘沿岸の各地には、古式捕鯨時代の山見台跡や狼煙(のろし)跡、総指揮を行う支度部屋(したくべや)跡などが残り、当時の勇壮な漁の様子を想像できる。

また、太地漁港周辺に残る集落全体を取り囲む石垣の一部や、集落の入り口にあたる場所にあった“和田の岩門(せきもん)”などは、かつて地域が一つの共同体として捕鯨に取り組んでいた面影を今に残しており、江戸時代以降、この地域の産業と文化の根幹であった古式捕鯨の名残を今も伝えている。



灯明崎山見台跡

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	河内祭の御舟行事 <small>こうちまつり みらね</small>	国重要無形民俗	祭りのハイライト舟渡御 <small>(ふなとぎよ)</small> に登場する装飾された鯨船が、かつて捕鯨が地域の生活を担う誇るべき産業であったことを今に伝えている。	串本町
2	九龍島 <small>くろしほ</small>	国名勝	熊野灘沿岸の人々が、捕鯨につながる熊野水軍として活躍した時代に拠点のあった島であり、捕鯨が育んだ文化の一つ「河内祭り御舟行事」の舞台となる古座川 <small>(こざがわ)</small> 河口に位置し、祭りにとって聖なる場所とされる。	串本町
3	潮岬の鯨山見 <small>しほのみさき くじらやまみ</small>	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台があった跡であり、かつて、古座鯨方 <small>(こざくしらがた)</small> の拠点であった。岬の突端に位置し、熊野灘を沖合まで広角に見渡せる。	串本町
4	捕鯨の祖 和田頼元墓 <small>とら ねもと の はか</small>	県史跡	熊野灘地域において組織的捕鯨(古式捕鯨)を始めた和田頼元の存在が墓石から確認できる。	太地町
5	太地のくじら踊 <small>たいじ おどり</small>	県無形民俗	捕鯨が育んだ文化として、かつての古式捕鯨における行事を今に伝える。もとは「デーカイト」と呼び継承されてきた。踊手 <small>(おどりて)</small> 、唄手 <small>(うたいて)</small> 、太鼓打ちに分かれ、踊りは、綾棒 <small>(あやぼう)</small> を鉦 <small>(かね)</small> に見立てて打ち振る「綾踊り」と、素手のまま太鼓のリズムにのせて鯨をつかみ取る「魚 <small>(さかな)</small> 踊り」の豪快な2曲からなり、いずれも座踊 <small>(ざおどり)</small> である。2隻の船の間に板を渡して踊る「船がかり」と、座敷に2段の舞台を組み踊る「座敷がかり」がある。	太地町
6	飛鳥神社 <small>あすか</small>	町指定(建造物)	当神社で行われる「お弓祭り」(例祭)では、的に取り付けられた鯨に似せた「せみ」を奪い合うなど、捕鯨にまつわる伝統行事が今も受け継がれている。	太地町
7	鯨供養碑 <small>くじら</small>	町史跡	古式捕鯨時代に建立された現存する唯一の供養碑として、かつて人々が鯨に寄せた思いをしのぶことができる。	太地町

8	古式捕鯨 支度部屋跡 しやくばやあと	町史跡	古式捕鯨が始まった頃に設けられた施設の跡で、明治以降に撤収されたが、古式捕鯨の名残を伝える。	太地町
9	古式捕鯨 狼煙場跡 のろしほあと	町史跡	当時、沖の船団に連絡をする唯一の手段であった狼煙場の様子を今に伝える。	太地町
10	燈明崎 燈明台跡 とうみょうざき とうみょうだいあと	未指定	かつて新宮藩から派遣された役人が常駐し、鯨油を利用した燈明台が設けられていた。現在、絵図等を参考に灯明台が建てられている。	太地町
11	燈明崎 山見台跡 とうみょうざき やまみだいあと	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台があった跡であり、現在、古式捕鯨図を参考に山見台が復元されている。	太地町
12	古式捕鯨 高塚連絡所跡 たかつなくらくしよあと	町史跡	遠く離れた山見相互の連絡をするため、中継所としての役割を果たした。連絡所の位置は、実に綿密に計画され設けられている。	太地町
13	和田の岩門 わだ いわかど	未指定	門の内側には、古式捕鯨の創始者である和田氏の広大な屋敷があったとされ、この地域一帯が、和田氏を中心とした共同体であったことを物語っている。	太地町
14	三輪崎の鯨踊 みねざき くじらおどり	県無形民俗	捕鯨が育んだ文化として、かつての古式捕鯨における行事を今に伝える。捕鯨とともに始まり、浜で踊った大漁祝いが起源であると伝えられている。鉦に見立てた綾棒を腰に差し、両手に扇子をもち網を投げて鯨を取りまく形を表現する「殿中踊 <small>(でんちゅうおど)</small> り」と、終始座して綾棒をかかげ、上半身のみで鉦突きを表現する「綾踊り」の2曲がある。	新宮市
15	羽指中建立の石祠 はざしなかこんりゅう せきし	未指定	側面に「〇〇〇組羽指中」とだけ読み取れる文字があり、この祠の所在する三輪崎地域の鯨方の羽指中が建立したものと考えられる。	新宮市
16	鯨山見跡 くじらやまみあと	未指定	沖を見るには絶好の場所に、現在石積がなされており、かつての三輪崎鯨方山見跡の名残を留めている。	新宮市
17	青岸渡寺の魚霊供養碑 せいがんたじ ぎょれい	未指定	鯨をはじめとした様々な魚の命をいただくことに対する感謝の表れとして、供養をするという精神文化が、今なお引き継がれている。	那智勝浦町

18	しおがま 塩竈神社のせみ祭り	未指定	鯨にまつわる祭りとして当神社で行われる「せみ祭り」(例祭)では、的に取り付けた鯨に似せた「せみ」を、「せみ子」と呼ばれる白装束の子供が引き抜き走るといふ、捕鯨にまつわる伝統行事が今も受け継がれている。	那智勝浦町
19	浜の宮のお弓祭り	未指定	熊野三所大神社の例祭であり、神事の中で、的に取り付けられた鯨に似せた「背美 <small>(せみ)</small> 」を奪い合う、あるいは的の端を持ち帰るなど、捕鯨にまつわる伝統行事として、今も受け継がれている。	那智勝浦町

## 平成28年度「日本遺産 (Japan Heritage)」認定一覧

No	都道府県	申請者 (◎印は代表自治体)	ストーリーのタイトル
1	宮城県	◎宮城県 (仙台市, 塩竈市, 多賀城市, 松島町)	政宗が育んだ“伊達”な文化
2	山形県	◎山形県 (鶴岡市, 西川町, 庄内町)	自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～
3	福島県	◎会津若松市・喜多方市・南会津町・ 下郷町・檜枝岐村・只見町・北塩原村・ 西会津町・磐梯町・猪苗代町・会津坂 下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三 島町・金山町・昭和村	会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往事の会津の文化～
4	福島県	◎郡山市・猪苗代町	未来を拓いた「一本の水路」—大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代—
5	千葉県	◎千葉県 (佐倉市, 成田市, 香取市, 銚子市)	「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」—佐倉・成田・ 佐原・銚子:百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並 み群—
6	神奈川県	伊勢原市	江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～
7	神奈川県	鎌倉市	「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～
8	新潟県	◎三条市・新潟市・長岡市・十日町市・ 津南町	「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化
9	石川県	小松市	『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～
10	長野県	◎南木曾町・大桑村・上松町・木曾町・ 木祖村・王滝村・塩尻市	木曾路はすべて山の中～山を守り 山に生きる～
11	岐阜県	高山市	飛騨匠の技・こころ —木とともに、今に引き継ぐ1300年—
12	兵庫県	◎淡路市・洲本市・南あわじ市	『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海 人の営み～
13	奈良県	◎吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下 北山村・上北山村・川上村・東吉野村	森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥 の地“吉野”～
14	和歌山県	◎和歌山県 (新宮市, 那智勝浦町, 太地町, 串本 町)	鯨とともに生きる
15	鳥取県	◎大山町・伯耆町・江府町・米子市	地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市
16	島根県	◎雲南市・安来市・奥出雲町	出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～
17	広島県・神奈川県・ 長崎県・京都府	◎呉市(広島県)・横須賀市(神奈川 県)・佐世保市(長崎県)・舞鶴市(京都 府)	鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できる まち～
18	愛媛県・広島県	◎今治市(愛媛県)・尾道市(広島県)	“日本最大の海賊”の本拠地:芸予諸島—よみがえる村上海賊 “Murakami KAIZOKU”の記憶—
19	佐賀県・長崎県	◎佐賀県 (唐津市, 伊万里市, 武雄市, 嬉野市, 有田町) 長崎県 (佐世保市, 平戸市, 波佐見町)	日本磁器のふるさと 肥前～百花繚乱のやきもの散歩～